

1. 活動日時

令和5年5月14日(日) 8:55-19:30

2. 活動場所

正院小学校避難所、正院公民館避難所、正院地区・三崎地区周辺の在宅避難者宅

3. 被害状況

被災後9日目。昨日は体感した余震が3回程度で継続して発生しており、余震で倒壊した家も散見される。

- ・人的被害：死者1名、重傷2名、軽傷35名
- ・住宅被害：全壊15棟、半壊13棟、一部損壊602棟

総務省消防庁 石川県能登地方を震源とする地震による被害及び消防機関等の対応状況（第16報）

4. 天候

雨時々曇り 最高気温17℃ 最低気温13℃

5. 活動の実際

8:55 珠洲市健康増進センター（保健医療福祉調整本部）にてミーティング

【全体の情報共有】：

<新規参加者の自己紹介>

- ・ 災害コーディネーター医師からの挨拶：家に帰るまでが災害支援であるため、事故なく帰宅するようにとのこと。

<本日の主な活動内容>

○避難所関連

- ・ 正院小学校から正院公民館へ避難所移動の予定である。
- ・ 正院小学校避難所の避難者数は5月13日（土）時点で13名。
- ・ 避難所の物品移動を午前中に行い、13時を以て正院小学校から10名移動する予定である。1世帯が団地への入居移行となる。
- ・ 正院公民館前で消防団が炊き出し予定。

○75歳独居高齢者世帯巡回訪問

- ・ 今後の目標訪問総数は811件である。昨日は241件が訪問終了。残り570件程度。
- ・ 雨天であり、雨漏りや家の相談が多くなると考えられる。
- ・ ゴミ出しは19日までは順番があるため、ゴミ出しに時間がかかることが予測される。
- ・ 巡回チーム数：保健師12、日赤2、ピースウィンズ・ジャパン2、JRAT1、日本災害看護学会1で、全18チームで活動予定。

9:15 【巡回チーム内での情報共有・調整・担当確認】

- ①正院公民館避難所移動準備：酒井
- ②巡回訪問：花房・金谷・窪田

9:20 【巡回チーム間での情報共有】 10 件予定

巡回リスト確認、巡回場所の確認、ルート確認を担当者間で行った。

9:20 【正院公民館避難所再開準備】

- ・ 正院公民館避難所にて、避難所レイアウトの最終安全確認。女子トイレの水漏れはない。多目的トイレのドアの開閉困難なため修理依頼。物品の不足確認。
- ・ 正院小学校避難所にて、正院公民館に必要な物品を選別し、物品一覧表（毛布・水・ゴミ箱・タオル・消毒物品など）を作成。正院公民館に移動する住民のリストおよび健康相談シートの作成。

9:40 【75 歳独居高齢者世帯巡回訪問】

- ・ 4 件不在、6 件は健康チェックと家の状況を確認した。
- ・ 不在宅で施錠されていないお宅では、身体状態が悪いことや孤独死等の生命の危機的状況なども不安であるため再訪問の必要性がある。
- ・ 昨日も夜に 3 回地震があってあまり眠れていないと話す方もおられた。
- ・ 買い物や畑を自分で行っている方もあり、被災後も自分らしく暮らす工夫をしていた。

<継続支援が必要な方>

80 歳代女性：被災後すぐに娘宅に避難されていたが、5 月 13 日に自宅に戻り、今後、一人で過ごすことに不安とのことであった。被災後の不安が更に大きくなることや、情報不足になる可能性もあるため、いつでも市役所に連絡してよいことを伝えた。

12:00 【75 歳独居高齢者世帯巡回訪問午前終了：まとめ・情報共有】

- ・ 巡回件数、継続支援の可否を QR コード入力と、保健師への報告を行なった。
- ・ 日本災害看護学会メンバー同士で、訪問後の情報共有と振り返りを行なった。

13:00 【正院公民館避難所再開準備】

正院公民館への入所時間開始になるが、入所予定者の変更があり、住民リストを書き換える。入所場所のレイアウト図作成。各部屋には、自室がわかりやすいように花の名前や動物の名前を表示した。

13:00 【午後からの巡回チーム間での情報共有】 9 件予定

- ・ 巡回リスト確認、巡回場所の確認、ルート確認を担当者間で行なった。

<継続支援必要な方>

独居の 80 歳代女性：話す相手もおらず寂しくてデイサービスに行きたいと話す。地震の時も転倒し杖歩行となり身体的にも不安がある。地域包括支援センター等の継続支援が必要である。

15:00 【75 歳独居高齢者世帯巡回訪問午後終了：まとめ・情報共有】 9 件

- ・ 巡回件数、継続支援の可否を QR コードに入力し、保健師への報告を行った。
- ・ 日本災害看護学会メンバー同士で、訪問後の情報共有と振り返りを行った。
- ・ 9 件中 5 件実施した。不在は入所中の 2 名を含め 3 件で、家が倒壊しており郵便物も溜まっている住家が 1 件あった。2 件は健康と生活状況の確認を行った。

16:00 【正院公民館避難所にて入居者の健康チェック】

正院公民館への入所開始。本日の避難所入所予定は13名の予定。入所者には、住所、連絡先、被害状況、身体的・精神的な状況などを確認し、健康状態を継続的にチェックする必要がある人を把握した。

入所者が共有スペースに集まってきたため、入所者のコミュニケーションが円滑になるように、お茶会を実施した。

19:30 夕食の準備と最終入所者の受け入れを行い、活動終了

6. 考察

本日は在宅独居高齢者の巡回に県内の保健師や外部支援チームが18チームで巡回した。継続支援が必要な方の中には、地震の被災後に不安感が大きくなり、デイサービスに行きたいと話す方もおり、個別の丁寧な対応が必要であり地域包括支援センターへの連携が必須であった。75歳以上の高齢者であっても、自身の生活は自立され、近所の片付けや掃除にも協力している方もいる。地区でお互いに支え合えば今後も効果的な支援体制が整うと考えられるため、地域のつながりを大事にした支援・復旧・復興計画が重要である。

地元保健師は被災後初めての休みであったが、保健師自宅も被災しており、十分な休息は取れない可能性がある。今後も長期的な支援体制を検討し、支援者支援を継続することが必要である。来週以降は、徐々に外部支援者が撤退となる。巡回訪問は今後も継続となるため、県内での中長期的な体制の構築が必要である。また、更なる余震による倒壊家屋の増加や危険度判定が未実施の地区もあるため、ボランティアの必要性は高い。

本日は、正院小学校から正院公民館への避難所移動を行った。自宅での生活を継続する方や県営住宅入居の方で電気やガスが通じていないため避難所に戻る方もおり、当日入居者の変更対応が必要であったが、スムーズに移動が完了した。バリアフリーであり、冷暖房完備、昼の部屋や感染対策室も設置し、環境を整えることができた。今後、避難所や仮設住宅での環境を継続的に整え、健康状態を見守ることで災害関連死を防ぐことが目標となる。

7. 課題

- 1) 巡回訪問継続、不在者への再訪問、必要な介護サービスを受けるための地域包括支援センターとの連携が必要である。
- 2) 外部支援者が集約される中での県内派遣での中長期的な支援者支援が必要である。
- 3) 避難所の集約移動による環境の変化によるストレスへの対応や、応急仮設住宅への入所に向けた準備が必要である。

8. 参考写真



75歳以上対象の個別訪問



正院公民館避難所入口



正院公民館避難所交流スペース



正院公民館避難所和室プライベートゾーン